

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）



代理人 磯野 道造 様	
あて名 〒102-0093 日本国東京都千代田区平河町2丁目7番4号 砂防 会館別館内 磯野国際特許商標事務所気付	

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
〔PCT規則43の2.1〕

出願人又は代理人 の書類記号 C11617	発送日 (日.月.年) 10.5.2005	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
国際出願番号 PCT/JP2005/005972	国際出願日 (日.月.年) 29.03.2005	優先日 (日.月.年) 29.03.2004
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ A61B6/03		
出願人 (氏名又は名称) 独立行政法人放射線医学総合研究所		

1. この見解書は次の内容を含む。
<input checked="" type="checkbox"/> 第I欄 見解の基礎 <input type="checkbox"/> 第II欄 優先権 <input type="checkbox"/> 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成 <input type="checkbox"/> 第IV欄 発明の単一性の欠如 <input checked="" type="checkbox"/> 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 <input checked="" type="checkbox"/> 第VI欄 ある種の引用文献 <input type="checkbox"/> 第VII欄 国際出願の不備 <input checked="" type="checkbox"/> 第VIII欄 国際出願に対する意見
2. 今後の手続き
国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。
この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。
さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。
3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日 14.04.2005	特許庁審査官 (権限のある職員) 安田 明央	2W 9309
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	電話番号 03-3581-1101 内線 3292	

第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

この見解書は、_____語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、
以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ 配列表

配列表に関連するテーブル

b. フォーマット 書面

コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 出願時の国際出願に含まれる

この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 棚足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1-8	有
	請求の範囲	無
進歩性 (IS)	請求の範囲 1-8	有
	請求の範囲	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1-8	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明

請求の範囲 1 - 8

X線束の照射軸線に対する角度に応じてヒール効果フィルタの厚さを変える際に、所定の計算式によって前記厚さを求めるることは、国際調査報告で引用された文献に記載されておらず、しかもその点は当業者といえども容易に想到し得ないものである。

第VI欄 ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書(PCT規則43の2.1及び70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日.月.年)	出願日 (日.月.年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日.月.年)
JP 2004-214130 A [E, A]	29.07.2004	08.01.2003	

2. 書面による開示以外の開示(PCT規則43の2.1及び70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日.月.年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日.月.年)

第VII欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

- ・ 請求項1には、「距離FCD」及び「FFDが前記陽極位置からY軸に沿った所定距離を示し」という記載があるが、FCD及びFFDがそれぞれ如何なる距離であるのか不明である。
- ・ 請求項1には、「z' と y' が各々Z軸とY軸との交点を原点とする各軸方向の位置とし」という記載があるが、如何なる意味であるのか不明瞭である。
- ・ 請求項1には、「La(θ)」という記載があるが、La(θ)が如何にして求められるものであるのか不明である。
- ・ 請求項1に記載された式1の計算式によってヒール効果補正フィルタの厚さが何故求められるのか不明である。
- ・ 明細書を参照したが、18~19頁の記載において、ヒール効果補正フィルタの厚さが何故どのようにして求められるのか不明である。